

## [巻頭言]

## 特集：人材育成と産学連携

学会誌編集委員長

山口 高平

情報システムは社会に広く浸透し、その役割がますます増大していることから、当学会では、多くの若い世代の人達が情報システムに関わって欲しいと考え、情報システムの人材育成に必要な教育のあるべき姿を探ることとし、全国大会、シンポジウム、研究会などにおいて、様々な講演会や討論会を実施してきました。このような背景から、本誌では、情報システムの人材育成と産学連携に関連の深い記事を集めることにしました。

まず、最近のシンポジウムと全国大会から、人材育成と産学連携に関連した発表を集めることとし、昨年のシンポジウムの基調講演である、佐伯胖先生の「情報システム人材の育成—感性と論理の新たな対話を求めて—」、一昨年の全国大会における産学協生パネル討論会における4つの講演、池川隆司氏の「研究インターンシップの課題：企業側産学連携業務を通して」、瀧田佐登子氏の「人材育成におけるオープンソースの意義」、丸山宏氏の「Innov8:ビジネスプロセスモデリングを教えるための3次元ゲーム」、小林義人氏の「実践知としての情報システム教育を考える～中堅社員向け研修プログラム企画開発実施の実例とデザイン・コンセプトから～」の講演録音テープ

から原稿に起こしました。なお、佐伯胖先生のご講演は、URL<sup>1</sup>からビデオ配信もされておりますので、併せてご覧頂ければと思います。

次に、実践的な情報システム教育を展開している3つの事例を紹介することにしました。狼嘉彰先生と前野隆司先生の「次世代の技術・社会システムを創造するリーダーの育成を担うシステムデザイン・マネジメント学の大学院教育」では、様々な新しい教育が試みられており、例えば、学生が数名でチームを組み、「利用者が自宅不在時に遠隔から操作可能な自動掃除システム」といった具体的なシステムの実装を通して、要求仕様書、設計仕様書、コードまでの一通りのプロダクトを開発し、プロジェクトとして進める困難さを体感できるユニークな教育実践があります。金田重郎先生の「実社会連携型 PBL の実践と課題」では、学生が開発したシステムを実業務に適用し、学生自らが継続的に運用・保守を行うことを実践されています。色々な困難は伴いますが、ある意味、真剣勝負せざるえない環境が学生に与えられ、学生が大きく成長する機会となりえます。青山幹雄先生他の「要求工学の動向と要求工学知識体系 REBOK(Requirements Engineering Body Of Knowledge)」では、わが国の実務者と研究者が共同で、世界に先がけて要求工学知識体系を策定するという野心的な試みであり、新しいタイプの産学連携とみなすことができます。

Takahira Yamaguchi

慶應義塾大学理工学部

Faculty of Science and Technology, Keio University

[巻頭言] 2010年09月30日受付

© 情報システム学会

<sup>1</sup> URL<http://video.nice2meet.us/presence/43798fe1672b16fcf2e2e3c26df186d4/popup/>

さらに、原著論文につきましては、偶然ではありますが、桑原(中島)尚子氏の情報教育の論文、岡部雅夫氏他の産学連携により開発された知識継承支援システムの論文が掲載され、本特集に関連した論文掲載となりました。

最後に、理工情報系学部・学科に対する学生の関心は依然高いとはいえない状況が続いております。今こそ、産官学が連携して、情報システム構築の醍醐味・魅力・面白さを若い世代の人達に伝えていくことを考えねばなりません。そのためのヒントが本誌にあると思いますので、是非、本誌を一読し、役立てて頂ければ幸いです。